

管子長板棚類点方

514

臺子長板之事

一 自前の時蓋並代並付まくと
 仕分けさして湯と汲時不柄抄
 と抄立ふ取事重す也句編膳
 代也り取る之柄又初欠蓋並
 と並付毎分付柄抄代取て掛
 る事有是ハ大子也略也尤仕
 也小も初め蓋並ハ不掛時登
 又在くと柄抄立ハ立る也尤

あしらのみの蓋並なるは此時
よ近し本の雨一並水瓦此蓋
と志欠侍る里又あし羅ひ此
好し並小てそくひり直よ有
指の蓋代も欠るく蓋並成柄
扱立の希く並背侍る里初蓋
並く掛多る時と仕也にも掛
るなる也

一 扱扱瓦ぬあに谷れ蓋成瓦く

史より柄扱と瓦湯成瓦む奉
有瓦炉風炉共安侍り申仕
也の跡あるとより後抄取の蓋
の時可然く

一 臺子の時不やと考あ奉初尔
坐くほやと並身をて湯を汲
希尔个やの蓋と返し史右徳
と也已柄扱を柄扱互より扱
瓦令れ蓋と取已湯と汲柄扱

瓦一瓦一瓦中蓋と志矢柄抄と
柄抄立一瓦个やの蓋成本の
志と志と並茶巻とう一とす
る
なま又茶を入ては屋の蓋成
返一柄抄を瓦湯と汲茶碗一
入抄巻一掛内也申仕也の時
も柄抄成瓦一瓦の蓋と志矢
柄抄成抄立一指一がや柄瓦
瓦蓋と平れ如志返一柄抄立

の前人並付身と到り寸指
る一柄能成はやと瓦蓋成返
一其坐一志付柄抄と志瓦
一持巻の蓋柄と柄抄巻一
掛子又仕也小も湯返一成志
と巻の蓋と志矢抄と柄抄立
一瓦一は屋の蓋成並一其坐
へ志成水指の柄一柄志矢个
巻と柄抄立此前一志付内一

五徳其外あり一徳ひ蓋は冬
皆如是

一 令れ蓋あはれ時と後紗小あ
五る奉るヶ極の令れ蓋とあ
つかあ同炉の臺子の時冬先
暖紗よて令の蓋取後紗と
仕也徳柄扱互に柄扱扱五湯
汲奉有令の蓋を扱紗小て五
るに冬ヶ扱れ異の方能の冬

一 令るもれと宗道五徳ひ臺子

よて濃茶取扱息と奉取亦一
此見せよ如 時ヶ扱と成

以て治め之此出と成と成
物矣之又暖紗扱小右の孫乃
暇一とて事とる一かと成
時も在扱と宗道と成

一 炉臺子の同柄扱と奉奉孫取
也利巻子一向子柄扱取取

又本乃如之也。已度利以事幾
交也。如气極多。分法之。又也。已
不中。並に柄抄紙。後之。率も有
之。も也。りりて。ハ。辨多。味。建。而
く。以。海。之。以。方。乞。可。慈。石。每
抄紙用也。

卯臺子真草行

一 初冬如常中蓋の時も柄抄紙

抄互一指しむあくらいの蓋
正もああふい中位也の時も
抄を抄互一指蓋正も抄互此
前へ正分て才と正ら之是如
法点のあしらいの唐物点よ
已以上冬極て如世す子之其
内唐物互と女し略有ても不
苦毛常此濃茶と真に点何奉
如是

一 中蓋と志欠柄抄共伝好く
まうけ茶袋也うし次志中仁
也の付は別の如く柄抄と柄
抄互へ互蓋志其茶へ志背る
幸大方中通り行の方之唐物
忘茶通若茶袋飾る也尔よ
む常乃濃茶よし
一 中蓋の時も蓋志へ柄抄と
柄中仁也の時と柄抄次志同

一 一加常蓋志とこ回し乃
へ志奉略之字の方なり
一 常の爲茶尔と初より柄抄蓋
蓋へ引てもよし茶托部口加
う略形也
志い津書と極て今次に茶
尔もあらす何れ共不若以
内唐物忘り以上重子茶
は略以志し不中

铸臺子之事

一 風炉水瓦尔靴有里是ハ有指
の靴下布て靴を風炉靴靴と
けて靴ウウシ 板の内一つ
冬と内あり其内風爐乃方好



一 此風炉凡板尔て別おを奉も
有る冬花月且座杯安内時炉
の形子座爰よ多铸臺子の所

を是小す事可有互う也
宗通永信以此同と風炉斗所
事之是也又躰臺子の所乃分
別也臺子尔てする事をよし

桐類は五斗子前小する事

一 臺子ハ大方臺目点るれとも
あいなをよしに臺子にする事も
五袋桐之同し鋸踏桐も水瓦

出しうけ石時は要る事も有
り其所の桐と皆に臺子也
但し臺子袋桐鋸踏桐に五
斗点尔を内付を初め茶具
飾よりは大目の通り

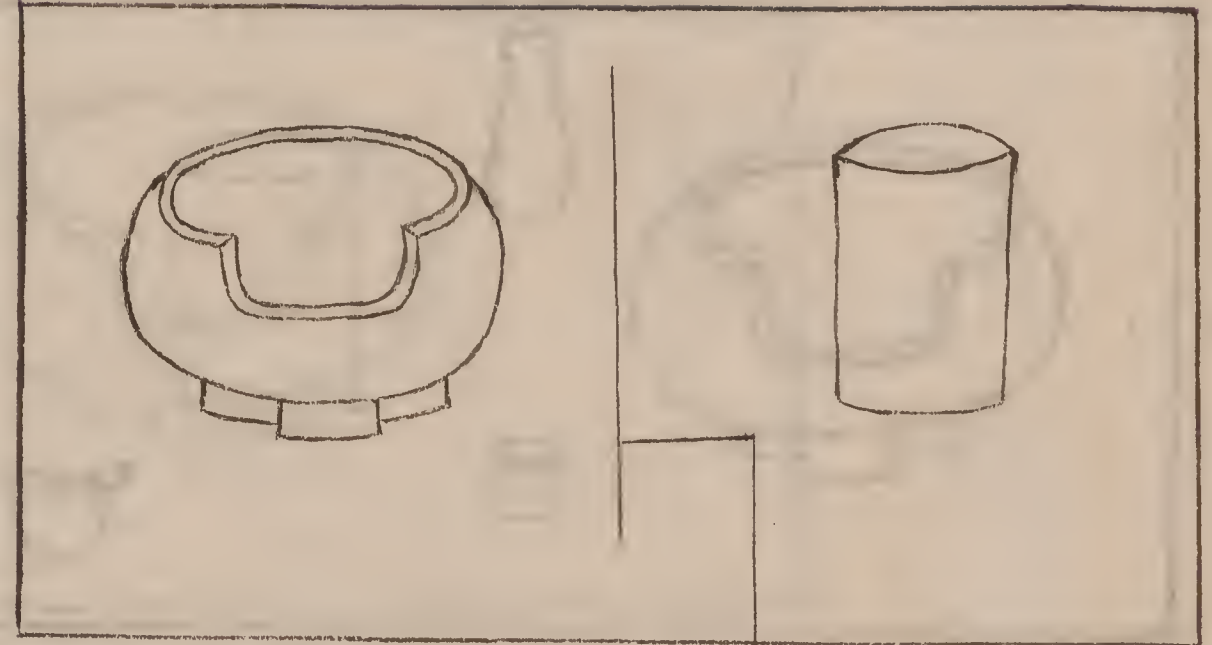
臺茶釜を付以て角かけてを
仕舞初欠に同じ大目の通

臺子長板尔を仕舞初事

一 臺子長板柄類亦て風炉の付
 前より仕也本更て其よりを
 かくある指の器之運ひ斗前上
 て仕也也其故亦そこをの時
 水瓦れ器ありて仕也ハ不苦ハ
 其故亦あるのありて仕也ハ
 古所ある所なる也

長板の事

一 如是斗柄有奉有匠方略之是
 其常の自あり之只長板正多る
 也云斗あり

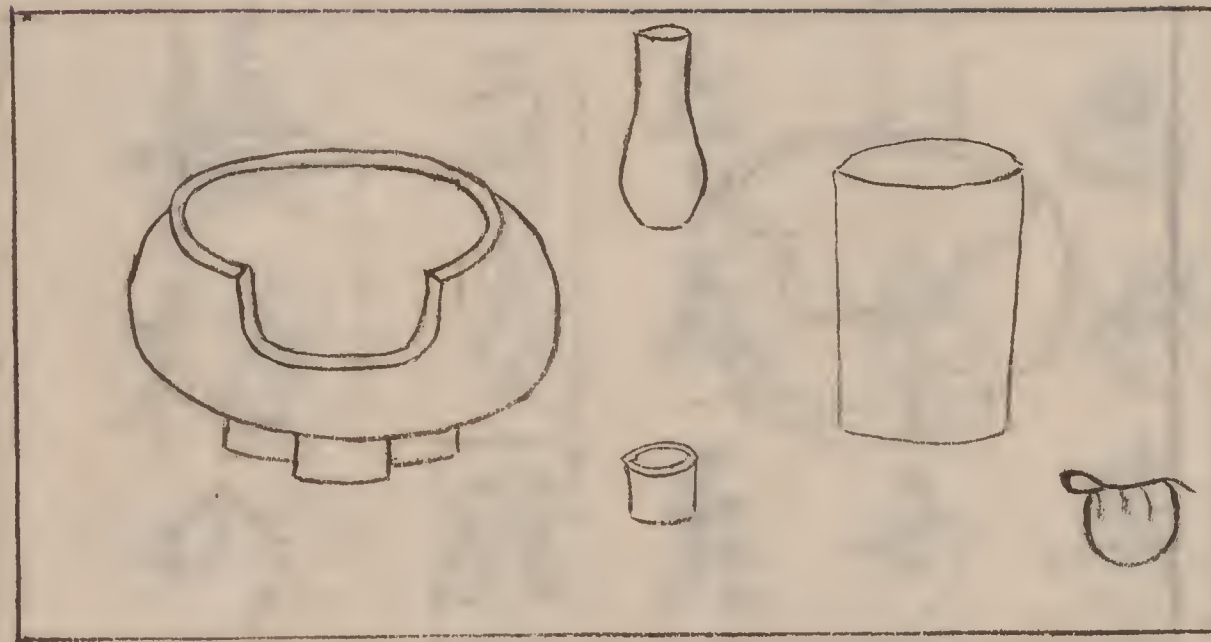


けり蓋並柄引奉を

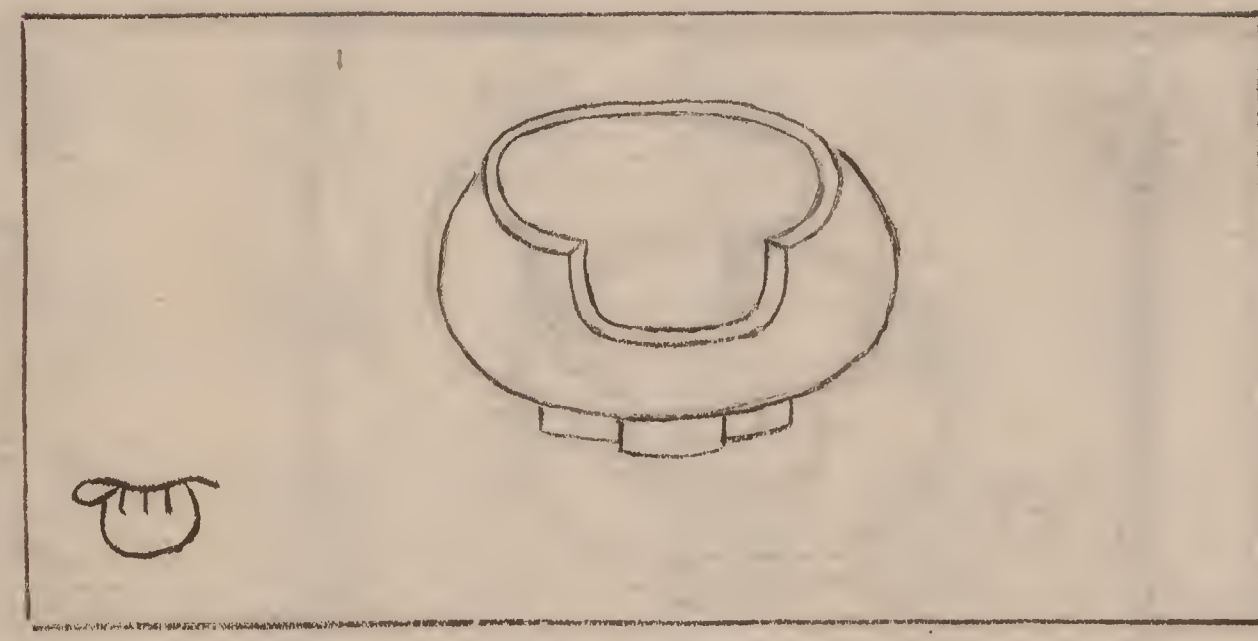
柄扱等の如

一向板なともも如急むる形利

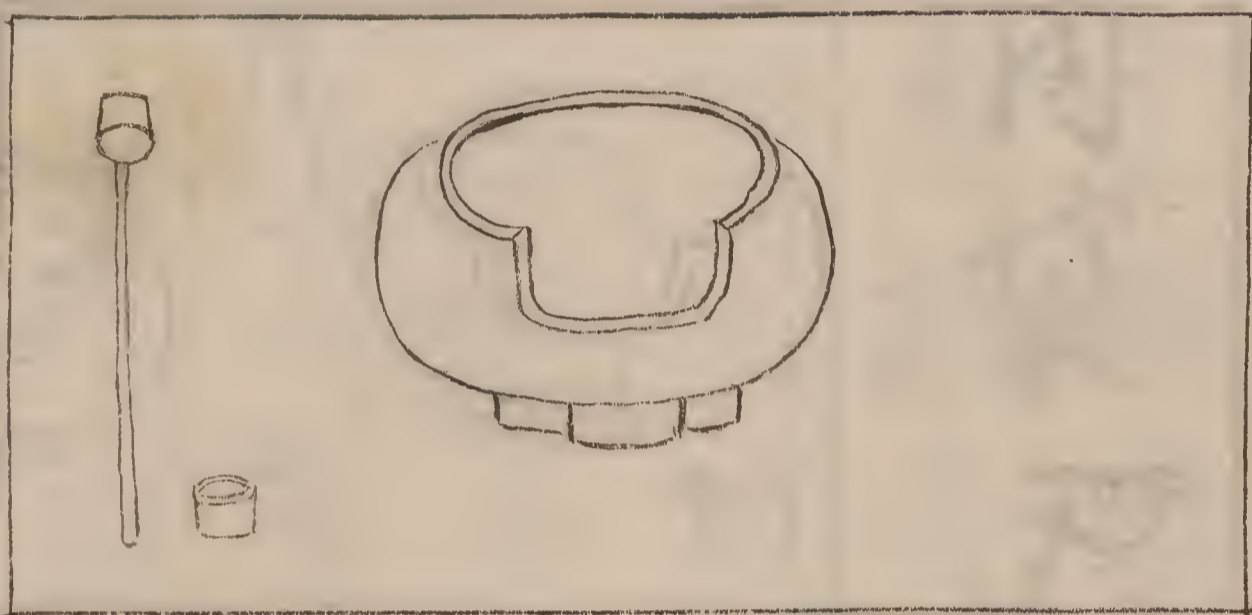
同袋之事



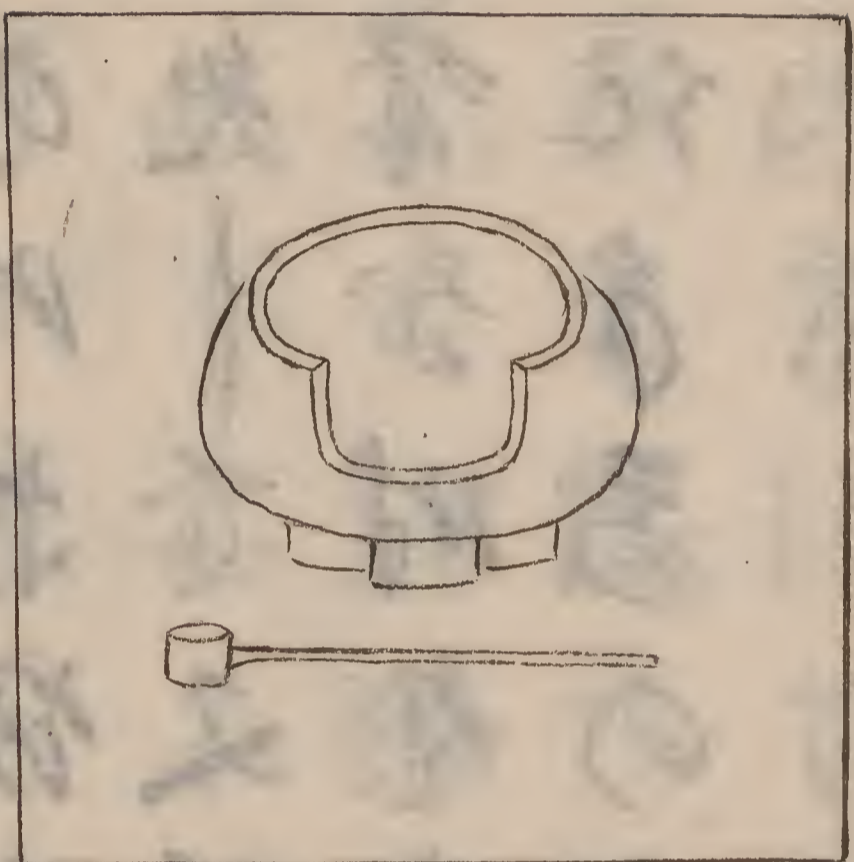
長板袋小サキ付ハ板ナリ
大成袋ハ針もあつた時を
大回一の先を又好まは
の卯を一つもよ水こ
回一の先を一つもよ水こ
行年を水は一つもよ
袋を多る一つもよ



是一つをの時袋如是
るりも長板



長板一ツ至仁也尔柄抄
 ぬい至如是のこまを
 るまのこ



大板の柄抄如是之常
 辨む所尔ても又中
 至よとと

同中立之時柄抄

一 中立の時尔餅者柄抄或水母
て志欠して又餅る之む客居
付才有る時冬丸も形くて不
若市起自前の時と極之ぬら
ま

同志欠餅子の事

一 曰奉柱の臺子正月元日より
之今日志め餅と張りて飾る
奉ハ仕方にて乞す事也仕
扱登志欠繩一帯仕如之うら
し流ありと或飾り臺子天井へ
張り也十筋下り多分葉
を両方へ分て以りへ内形り
む茶点るあり

外の座敷一桐並奉

一 桐類を以て尊ぶより上の坐敷
之又三疊尔等も並也釣桐な
紀時杯を風炉の時小桐の方
は御奉も有免し御座成り
去宗通ハ館に不好を奉り

如心御厨法小師

孤獨居士雪

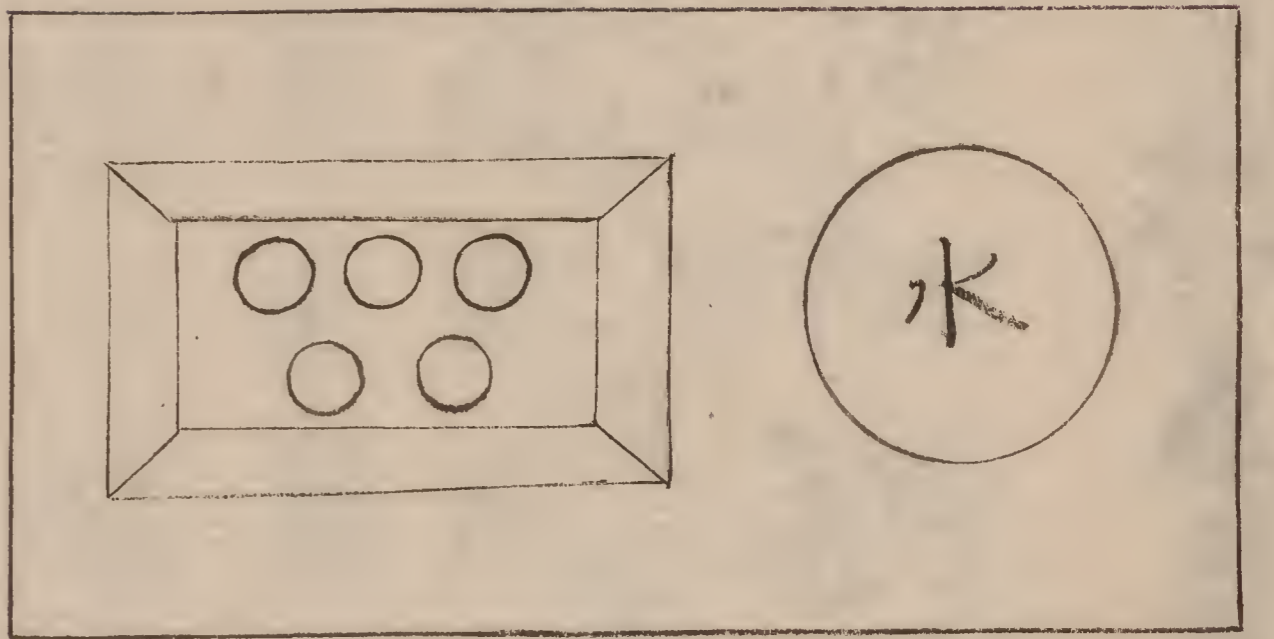
在列

寛政元酉年七月廿二日
於
亭々亭々之

宗實

外

事
長
盆



長板尔て茶力ヲ手
不自作意して如
柄抄好しとて
盆即飾忘り事
撫多る事如
以迄共而尔事

